



テクノロジーに、ハートをこめて。

2016年3月期

(第40期)

第2四半期決算 補足説明資料

株式会社 フォーカスシステムズ

2015年11月



本資料は、2015年11月6日現在において入手可能な情報、及び将来の業績に与える不確実な要因に係る2015年11月6日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。従って、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

 **Focus Systems**

単位:百万円

	2015/3期 上期 実績	2016/3期 上期 実績	前期比	
			増減額	増減率
売上高	7,286	7,494	207	2.9%
公共関連事業	2,518	2,496	△21	△0.8%
民間関連事業	4,248	4,600	351	8.2%
セキュリティ機器関連事業	518	397	△121	△23.4%
営業利益	295	201	△93	△31.6%
経常利益	270	197	△72	△26.8%
純利益	165	280	115	70.1%

民間関連事業における情報システムに関する投資意欲は、前年度からの回復傾向が継続している。
 公共関連事業においては、回復傾向がいったん落ち着いている。
 セキュリティ機器関連事業における減益は、前年におけるサイバーフォレンジックに係る関連省庁の予算が前倒しで執行されたことに対する反動減。当期の業績については計画通り推移。



貸借対照表

単位:百万円

区分	2015/3期 第2四半期	2015/3期 期末	2016/3期 第2四半期
(資産の部)			
流動資産	6,586	6,897	7,589
固定資産	6,979	7,443	6,458
有形固定資産	3,748	3,747	3,479
無形固定資産	113	188	218
投資その他の資産	3,118	3,507	2,760
資産合計	13,566	14,340	14,048
(負債の部)			
流動負債	4,033	4,141	4,131
固定負債	3,524	3,429	3,561
負債合計	7,557	7,571	7,692
(純資産の部)			
資本金	2,905	2,905	2,905
資本剰余金	1,468	1,468	1,468
利益剰余金	745	1,173	1,281
自己株式	△706	△706	△706
評価・換算差額等	1,596	1,928	1,407
純資産合計	6,009	6,769	6,355
負債純資産合計	13,566	14,340	14,048

総資産は、前事業年度末と比較して、292百万円減少しました。
これは主に、仕掛品の増加 154百万円、ソフトウェアの増加 154百万円、現金及び預金の増加 937百万円があったものの、受取手形及び売掛金の減少 370百万円、投資有価証券の減少 783百万円、ソフトウェア仮勘定の減少 124百万円によるものです。



単位: 百万円

区分	2014/3期 第2四半期	2015/3期 第2四半期	2016/3期 第2四半期
売上高	6,442	7,286	7,494
売上原価	5,674	6,392	6,638
売上総利益	768	893	856
販売費及び一般管理費	519	598	654
営業利益	248	295	201
営業外収益	36	26	35
営業外費用	44	51	39
経常利益	240	270	197
特別利益	—	—	235
特別損失	—	1	1
税引前四半期純利益	240	269	432
法人税等	125	104	151
四半期純利益	115	165	280

売上高は、前年同四半期に比べ207百万円増加しました。
これは主に、民間関連事業の増加351百万円によるものです。

営業利益の減少は、東京証券取引所市場第二部への市場変更に要した費用および社内基幹システムの導入に伴う費用の増加によるものです。

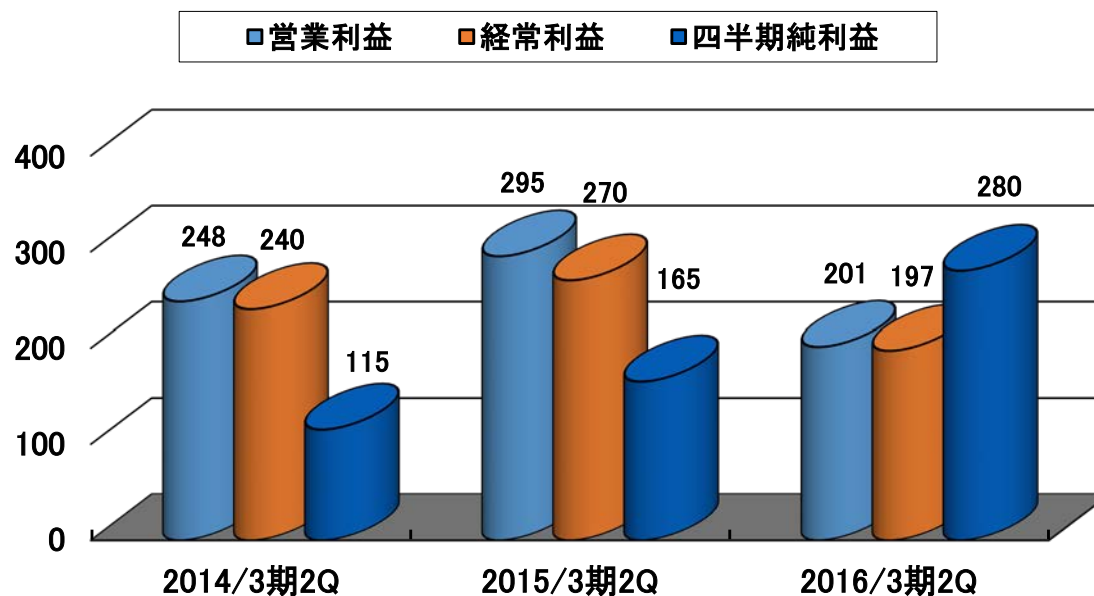
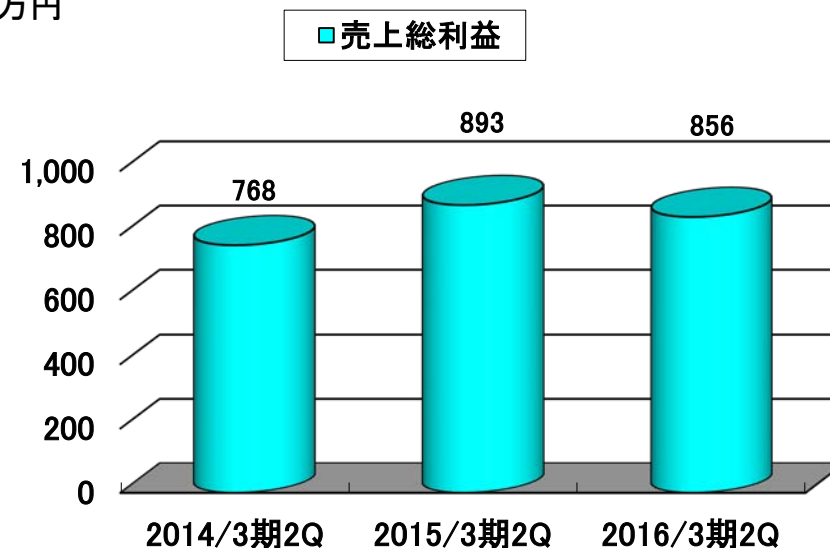
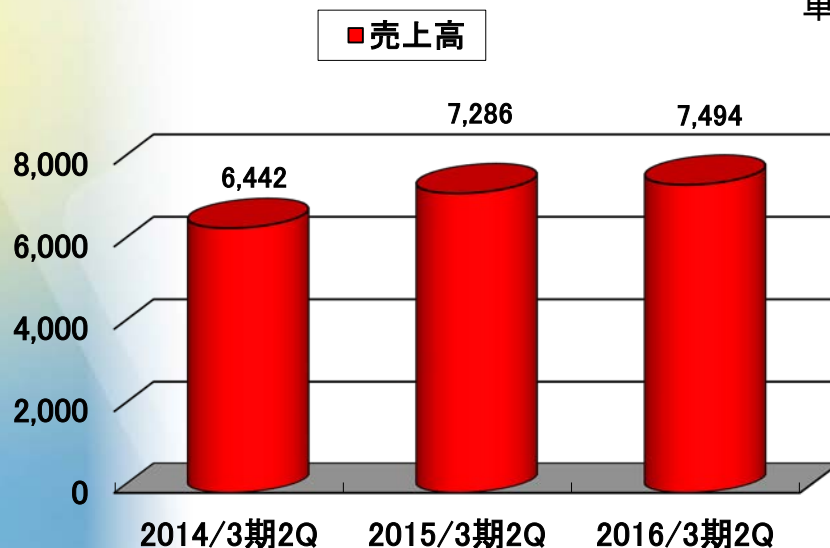
特別利益は、主に投資有価証券売却益208百万円によるものです。

上記の結果、当第2四半期の純利益は280百万円となり、前年第2四半期に比べ115百万円の増加となりました。



經營成績(直近3年)

単位: 百万円



単位: 百万円

区分	2015/3期 第 2 四半期	2016/3期 第 2 四半期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	213	182
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△145	331
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	281	398
IV 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	348	911
V 現金及び現金同等物の期首残高	2,910	3,106
VI 現金及び現金同等物の四半期末残高	3,259	4,018

I 営業活動による キャッシュ・フロー

法人税等の支払額 143百万円、未払消費税等の減少額 140百万円があった一方で、税引前四半期純利益 432百万円等により、営業活動の結果得られた資金は、182百万円となりました。

II 投資活動による キャッシュ・フロー

無形固定資産の取得による支出 54百万円、有形固定資産の取得による支出 44百万円、保険積立金の積立による支出 32百万円があった一方で、有形固定資産の売却による収入 272百万円、投資有価証券の売却による収入 219百万円等により、投資活動の結果得られた資金は、331百万円となりました。

III 財務活動による キャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出 626百万円、配当金の支払額 171百万円があった一方で、長期借入れによる収入 700百万円、社債の発行による収入 492百万円等により、財務活動の結果得られた資金は、398百万円となりました。

VI 現金および現金同等物の期末残高

上記の結果、当第 2 四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ 911百万円増加し、4,018百万円となりました。

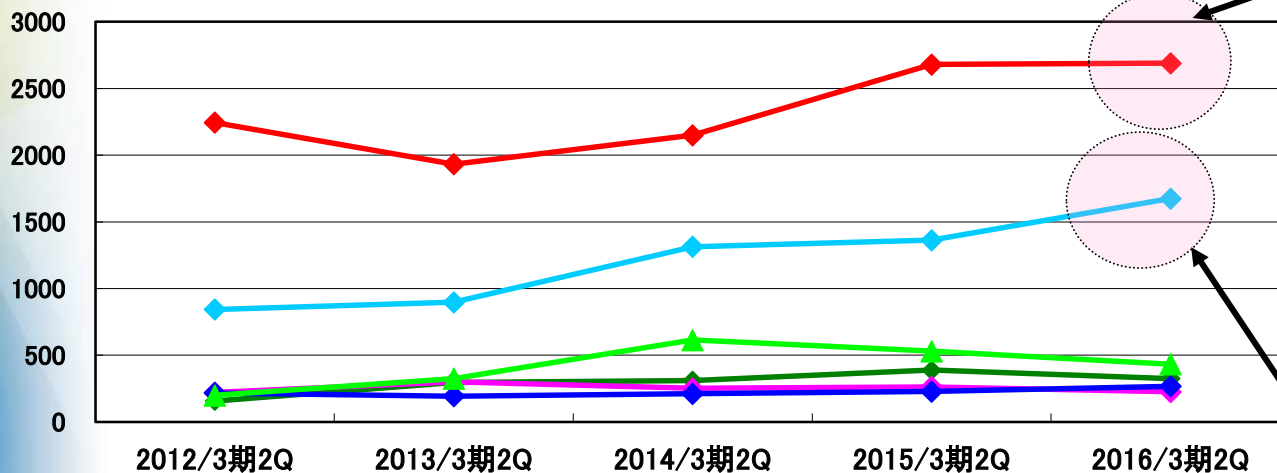


単位:百万円

	売上高（各期第2四半期）					
	2012/3期	2013/3期	2014/3期	2015/3期	2016/3期	
公共関連	2,150	1,951	2,005	2,518	2,496	民主党への政権交代以降、計画見直し、予算縮小など、厳しい状況が続いていたが、前年上半期からの回復傾向がいったんの落ち着きを見せている。
民間関連	3,262	3,451	3,842	4,248	4,600	需要が順調な中、既存ユーザとの取引深耕、新規ユーザ獲得の両面より受注体制を確立してきた。Webアプリケーション、インフラ構築の分野が好調。
セキュリティ機器関連	175	302	595	518	397	前々年の補正予算による特需、前年のサイバーフォレンジックに係る関連省庁予算の前倒し執行に対する反動減。当期の業績については計画通り推移。



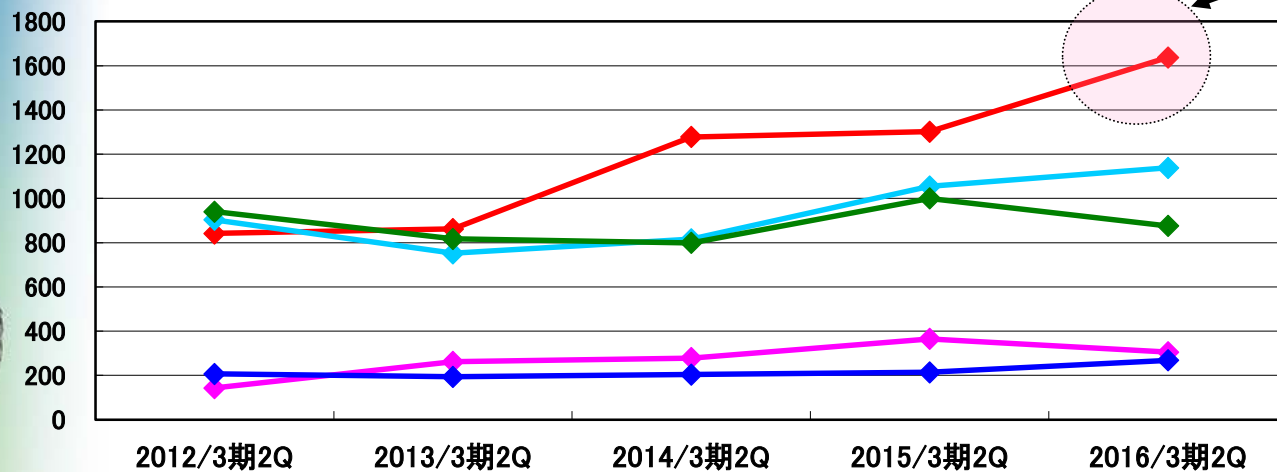
顧客グループ別



公共関連事業の回復傾向がいったん落ち着いている。

日本IBM関連(民間関連事業)が好調

主要顧客別



	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 年間配当金
通期予想	15,300	950	920	600	12円 50銭

※ 1株当たり年間配当金については、平成27年8月6日に公表いたしました「株式分割および配当予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株に分割する株式分割を考慮した額を記載しております。
 なお、株式分割実施前に換算すると、平成27年5月8日に公表いたしました1株当たり期末配当予想と実質的には変更はありません。



ご 参 考

1. 企業理念および企業集団の状況
2. 決算データ推移
3. 当期トピックス
4. 当期製品トピックス



経営理念

「社員すべてが心と力を合わせ、企業の発展と成長を通じて、
未来のより良い環境作りに貢献する。」

経営ビジョン

私たちは、以下の3つの責任を果たしていきます。

1. 個人責任

人間性と技術力を磨き、最高のサービスをお客様に提供します。

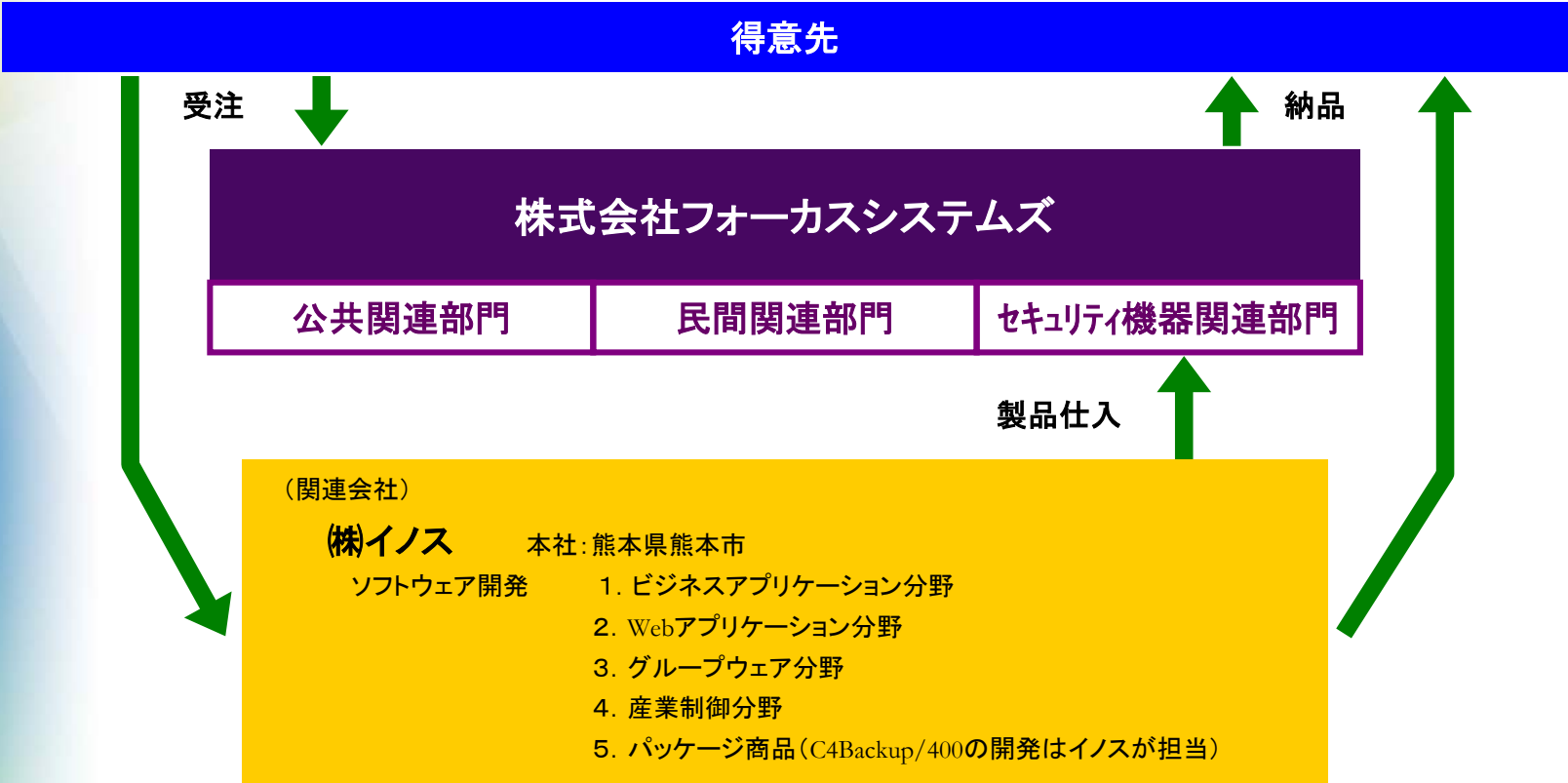
2. 企業責任

社員相互が信頼し合い、安心かつ働きがいのある会社を作ります。

3. 社会責任

お客様、投資家、株主様から信頼され、
社会から必要とされる会社を作ります。





関連会社の状況 (平成27年9月)

社名	持分 (%)	売上高 (千円)	経常利益 (千円)	純利益 (千円)
(株)イノス	20.0	457,704	△29,821	△36,948



第2四半期累計期間 決算データ推移

非連結 第2四半期	2010/9/30	2011/9/30	2012/9/30	2013/9/30	2014/9/30	2015/9/30
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
売上高(千円)	5,272,198	5,588,095	5,704,998	6,442,980	7,286,457	7,494,427
営業利益(千円)	△99,155	△81,298	△30,292	248,863	295,330	201,893
経常利益(千円)	△115,555	△94,635	△32,715	240,499	270,541	197,972
四半期純利益(千円)	△50,107	△94,635	△212,676	115,459	165,028	280,706
1株あたり四半期純利益(円)	—	△11.96	△29.59	16.68	23.84	40.54
資本金(千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422
発行株式総数(株)	9,195,365	8,146,471	8,146,471	8,146,471	8,146,471	8,146,471
純資産額(千円)	4,575,350	6,079,150	4,827,827	4,779,151	6,009,495	6,355,657
総資産額(千円)	9,173,406	12,456,903	11,374,909	10,977,520	13,566,857	14,048,313
自己資本比率(%)	49.9%	48.8%	42.4%	43.5%	44.3%	45.2%
営業活動によるキャッシュフロー(千円)	—	108,305	△1,299,726	300,713	213,226	182,453
投資活動によるキャッシュフロー(千円)	—	△79,067	863,407	△48,877	△145,357	331,104
財務活動によるキャッシュフロー(千円)	—	106,346	237,741	△323,577	281,017	398,262
現金及び現金同等物の四半期末残高(千円)	—	1,797,688	2,286,015	2,323,759	3,259,384	4,018,528
従業員数(人)	917	909	911	941	983	1,035

- 注1. 平成23年3月期まで連結財務諸表を作成しておりますので、平成23年3月期までの1株あたり四半期純利益、営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー並びに現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。
2. 平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、1株当たり四半期純利益は、株式分割前の数値で算定しております。



非連結通期 決算年月	2010/3/31 平成22年3月	2011/3/31 平成23年3月	2012/3/31 平成24年3月	2013/3/31 平成25年3月	2014/3/31 平成26年3月	2015/3/31 平成27年3月
売上高(千円)	11,702,747	11,401,654	11,909,800	12,353,938	14,146,242	15,081,738
営業利益(千円)	127,368	187,847	△47,127	439,240	887,789	940,310
経常利益(千円)	88,538	145,650	△58,532	416,311	849,751	897,205
当期純利益(千円)	△157,384	86,844	151,563	241,130	455,647	592,742
自己資本当期純利益率(%)	—	1.8	2.7	4.4	9.2	10.0
総資産経常利益率(%)	—	1.5	△0.5	3.4	7.4	6.9
売上高営業利益率(%)	—	1.6	△0.4	3.6	6.3	6.2
資本金(千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422	2,905,422
純資産額(千円)	4,677,323	5,045,697	6,047,149	4,868,962	5,029,600	6,769,094
総資産額(千円)	9,060,966	10,129,135	13,208,330	11,195,332	11,837,231	14,340,827
自己資本比率(%)	51.6	49.8	45.8	43.5	42.5	47.2
1株当たり純資産(円)	540.09	619.37	821.40	703.26	726.46	977.72
従業員数(人)	867	895	882	899	941	962

- 注1. 平成22年3月期まで連結財務諸表を作成しておりますので、平成22年3月期までの総資産経常利益率、売上高営業利益率は記載しておりません。
2. 平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、1株当たり純資産は、株式分割前の数値で算定しております。



非連結通期	2010/3/31	2011/3/31	2012/3/31	2013/3/31	2014/3/31	2015/3/31
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
営業活動によるキャッシュフロー(千円)	—	242,088	314,081	△1,020,472	667,012	567,492
投資活動によるキャッシュフロー(千円)	—	435,676	442,707	875,377	△119,320	△334,656
財務活動によるキャッシュフロー(千円)	—	△158,008	65,699	56,002	△32,694	△36,627
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	—	1,662,104	2,484,592	2,395,500	2,910,498	3,106,707
発行株式総数(株)	9,195,365	8,146,471	8,146,471	8,146,471	8,146,471	8,146,471
1株当たり当期純利益(円)	△18.17	10.20	19.52	34.03	65.81	85.61
1株当たり配当(円)	0	10.00	10.00	15.00	20.00	25.00
配当性向(%)	—	98.0	51.2	44.1	30.4	29.2
純資産配当率(%)	—	1.7	1.3	1.9	2.8	2.9
株価 年度高値(円)	450	600	659	679	858	1,210
株価 年度安値(円)	211	220	418	552	442	540

- 注1. 平成22年3月期まで連結財務諸表を作成しておりますので、平成22年3月期までの営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー並びに現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。
2. 平成27年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、発行株式総数、1株当たり当期純利益、1株当たり配当は、株式分割前の数値で算定しております。



平成27年9月7日

インディビジュアルシステムズ社への出資を決定

株式会社フォーカスシステムズ(以下「当社」)とベトナムの日系ソフトウェア開発会社インディビジュアルシステムズ社(以下「IVS」)は本日、当社がIVSに対し、現地当局の許認可等の取得を前提として、出資する事で合意しました。当社の出資比率は10%となる予定です。

日本国内においてはIT投資が活発化しており、当社が得意としているソフトウェア開発事業の受注状況は順調に推移しております。しかしながら慢性的な技術者不足が続いており、より一層のビジネス拡大を妨げる要因となっています。

また、当社のお客さまからの要望や競合他社との競争関係において、ソフトウェア開発工程におけるコストダウンは大きな課題となってきています。

IVSは2002年の創業以来、ベトナムのエンジニアの育成と日本向けオフショア開発の実績を着実に積み、現在日系IT企業としてはトップクラスの200名を超えるエンジニアを抱えています。また、ベトナムに進出している日系企業を中心に現地でのSI事業も毎年拡大しており、成長著しい優良企業です。

このような背景のもと、両社は2013年からオフショア事業での取引関係を続けてきましたが、これまでの協業関係をより強固なものとし、さらなるビジネス拡大に繋げていくため、出資のはこびとなりました。

具体的な出資の目的は以下の2点です。

■オフショア事業の拡大

IVS内にオフショア開発センター(ODC)を設置し、3年後までに100人規模の体制を構築

■ASEANマーケットへの進出

ベトナム国内および周辺ASEAN各国の現地マーケットに対するSI事業の進出・拡大
上記目的を達成するため、今後両社で協力し、以下の施策を実行して参ります。

■人材交流を活発化させ、当社の持つソフトウェア開発ノウハウ全般の伝播を進めます。

■両社それぞれのお客様に対する営業戦略を連携させ、日本国内・ベトナム国内それぞれにおいて共同での提案活動を進めます。

■ベトナム国内および周辺ASEAN各国のマーケットリサーチを共同で行い、現地マーケットに対するSI事業の受注拡大を進めます。

以上



平成27年8月6日

株式分割および配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成27年8月6日開催の取締役会において、株式分割および配当予想の修正について下記のとおり決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 株式分割

(1) 株式分割の目的

株式分割を行い投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を図ることを目的とするものです。

(2) 株式分割の概要

① 分割の方法

平成27年9月30日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたします。

② 分割により増加する株式数

分割前の発行済株式総数	8,146,471株
今回の分割により増加する株式数	8,146,471株
株式分割後の発行済株式総数	16,292,942株
株式分割後の発行可能株式総数	36,000,000株

(3) 分割の日程

基準日 公告日 平成27年9月14日(月)

基準日 平成27年9月30日(水)

効力発生日 平成27年10月1日(木)

(4) その他

今回の株式分割に際し、当社資本金の額の変更はありません。

2. 第40期(平成28年3月期)配当予想の修正について

当社株式1株を2株に分割することに伴い、株式の分割後となる平成28年3月期の期末配当予想につきましては、平成27年5月8日に公表いたしました「平成27年3月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」記載の予想金額を1株あたり25円から12.5円といたします。

以上



平成27年10月29日

エプソン販売株式会社と連携し、スマートヘッドセット向けに、Beaconの展開を開始

株式会社フォーカスシステムズはエプソン販売株式会社と連携し、同社が販売するスマートヘッドセット MOVERIO Pro『BT-2000』と連動できるBeaconの提供を開始いたしました。

フォーカスシステムズのBeaconは、Bluetooth®Smart規格に準拠した省電力・薄型センサーデバイスで、MOVERIO Pro『BT-2000』で動作が確認されている唯一の製品です。

MOVERIO Proについて

MOVERIO Pro『BT-2000』は、メガネのように装着して使用する業務用ウェアラブル情報機器です。両眼シースルーにより視野内に情報を大画面で表示でき、かつ、ハンズフリーで作業を行うことができるため作業現場の効率化を実現します。

独自のアプリケーション開発が可能で、ユーザーの利用シーンに合わせた柔軟な利用が可能な端末です。

利用シーン

MOVERIO Proと弊社ビーコンと連動させることで、下記利用シーンの実現が可能になります。

- ・組立工場等で設計書や手順書をMOVERIO Proに自動で表示させる。
- ・工場の危険区域に入るとMOVERIO Proにアラートを表示させる。
- ・保守点検箇所に入ると自動的に点検項目をMOVERIO Proに表示する、等。

以上



平成27年10月8日

富士ゼロックス様の会員制ポータルサイト「富士ゼロックスダイレクト」のプラットフォームをintra-martで構築

株式会社フォーカスシステムズは、カラー複合機やカラープリンターを始め、ドキュメントソリューション事業を展開する大手メーカーである富士ゼロックス株式会社様のサービス提供会員制ポータルサイトである「富士ゼロックスダイレクト」のプラットフォームを、システム共通基盤「intra-mart（イントラマート）」を用いて構築しました。

富士ゼロックス様は、創業以来、より良いコミュニケーションを通じてお客様や社会の理解を促進することを基本的な理念とし、紙の情報を複写するゼログラフィーの技術でオフィスに変革を起こし、その後もさまざまな商品・サービスを通じてお客様のコミュニケーション活動や、価値創造を支援してきました。

また、2010年からは富士ゼロックスの商品・サービスをご利用のお客様向けに、会員制ポータルサイト「富士ゼロックスダイレクト」を提供しています。

この度、「富士ゼロックスダイレクト」のプラットフォームを刷新するに当たり、お客様接点が連携するコミュニケーションやワンストップサービスを具現化するためのビジネスインフラとして、「intra-mart」でのシステム構築をご採用頂きました。新システムは、サービスの拡充を見据え、標準化及び汎用化された基盤として設計・実装することで、ソフトウェアやサービス商品のスピーディな展開を可能としました。

また、フロント、バックオフィス含め、複数地域のシステムを統合、標準化し、マルチテナント可能な基盤を構築することで、これまで以上に高品質なサービスの提供を可能としております。

●新システムの特徴

1. 富士ゼロックス様の各種サービスを提供するプラットフォームを「intra-mart AccelPlatform」を用いて構築。サービスフロント機能と各種管理業務機能を、全て1つの「intra-mart AccelPlatform」上に実装。
2. これにより、サービス提供部門からお客様まで一気通貫で管理できるワンストップサービスを実現。
3. また、各国の特性に合わせたサービス展開とお客様に応じた顧客嗜好型ワン・トゥ・ワン サービスの仕組みを強化。

●「intra-mart」について

個別最適化された企業内のIT環境を集約し、各業務アプリケーションの全社横断的な運用を可能にするシステム共通基盤（開発・運用フレームワーク）です。フォーカスシステムズでは、2004年より「intra-mart」を用いた開発案件に携わって参りました。プロジェクト数は200件を超え、システム提案、開発、製品販売、保守運用まで幅広くお客様ニーズに合わせた対応が可能です。

以上



平成27年7月21日

薄さと軽さでIoTビジネスを加速させる業務用薄型Beaconを発売

株式会社フォーカスシステムズは業務用薄型のBeaconの製造・販売を開始いたします。
フォーカスシステムズのBeaconは、Bluetooth® Smart規格に準拠した省電力、薄型センサーデバイスです。

特徴

- ① 用途、環境に合わせてカスタマイズ可能
あらゆるIoTビジネスを想定しLED、ストラップホール、ボタン、ブザー(オプション対応)を搭載しました。アプリケーションに応じて、信号発信のみならず様々な用途が期待できます。
- ② 薄さは3.5mm、重量は5g
最大の特徴はその薄さと軽さです。
設置や持ち運びが容易になったことで、あらゆるシーンでメッセージの送信が可能となりました。
- ③ Bluetooth® Smart規格に準拠
低消費電力規格Bluetooth® Low Energy に対応したBluetooth Smart 製品です。
送信エラーの発生を減らし電力消費量を削減するため、より効率性の高い接続性を実現します。

利用シーン

位置情報の把握、忘れ物防止、セキュリティへのソリューション
O2Oマーケティング分野における集客等のプロモーションに限らず、子供やペット、お年寄りの見守りニーズとして、また入退室管理などのセキュリティデバイスとして、そしてスタッフの位置情報の検出や所在位置表示など、FCS1301は幅広い用途に対応可能なウェアラブルデバイスです。
キーホルダーなどに留めておけて便利です。

以上



平成27年7月7日

東京国税局へICT関連の技術支援等コンサルタント業務を提供開始

株式会社フォーカスシステムズは、デジタル・フォレンジック技術と豊富な不正調査の経験を活かしたコンサルティングサービスを東京国税局に提供します。

近年、標的型攻撃の急増や多様化、内部犯行も巧妙化しており、情報セキュリティやリスク対策も喫緊の課題になっています。一方で新たなオペレーティング・システムやセキュリティ・システム、リスク対策技術などが次々に登場し、そのような新たな技術への対策も課題となっています。

株式会社フォーカスシステムズでは、フォレンジック調査やサイバーセキュリティ対策に必要なツールを豊富に取り揃え、お客様のニーズに併せて提供しています。また、これらの技術を活用したリスク対策やトレーニング等のサービスを提供するため、常に最新の動向や技術についての情報収集・研究活動を実施しています。これまで蓄積されたノウハウや技術によって、本件のコンサルティングサービスの提供が可能になりました。

以上



平成27年6月18日

電子透かし『acuapicture』慶應義塾大学アート・センター様にご採用

株式会社フォーカスシステムズ(以下、フォーカスシステムズ)は電子透かし製品『acuapicture』<アクアピクチャー>を、慶應義塾大学アート・センター様(Keio University Art Center)(以下、アート・センター様)のコンテンツ管理業務にご採用いただきました。

アート・センター様では現代芸術、とりわけ日本の戦後芸術を中心に研究・教育活動を行っています。その一環として、三田キャンパスで展覧会を開催しているほか、国内外の展覧会への作品および資料の貸出を行っています。しかし、貸出の際に出版物作成等のために提供しているデジタルコンテンツが、目的外に利用されることに懸念を抱いていました。

昨今、デジタルコンテンツの受け渡しの対策として、目視では識別できない情報をコンテンツに埋め込む電子透かし技術の利用が拡大しています。

アート・センター様ではデジタルコンテンツの著作権保護の対策として、電子透かし『acuapicture』をご採用。提供するデジタルコンテンツに透かし情報の埋め込みを行い、コンテンツの不正利用が発覚した際、透かし情報を確認することで流出元を判別することを可能としました。

今後、フォーカスシステムズでは、アート・センター様から製品に対するご意見等を頂きながら、技術的研究及び製品の機能、品質の向上を図って参ります。

■ 電子透かし『acuapicture』とは？

デジタルコンテンツ(jpg、png、bmp等)に人の目で判別しにくい形で情報を埋め込むことができる製品です。パソコンにアプリケーションをインストールし、画像をドラック&ドロップすることで、簡単に著作権情報(透かし情報)を埋め込むことができます。システムに組み込むことができるSDK(開発キット)のご提供も可能です。

以上



今後とも、ご指導ご支援のほど
お願い申し上げます。

